



足立区立六月中学校

令和2年第2号

校長 塚原 洋

共存

昨年度末から続く休業期間が緊急事態宣言を受け5月末までに延長され、学校が再開できていませんでした。緊急事態宣言が解除されいよいよ学校が再開されます。

足立区は学校再開後3週間はクラスを3分の1ずつ登校させる分割登校を実施します。3日に1回の登校となりますが、とても丁寧な対応と考えています。3密を避ける新しい生活様式が始まります。学校再開に向けての試運転となり、生徒が今までと違う生活様式に慣れるためには必要な期間となるはずです。

ヒト人工多能性幹(iPS)細胞を生成する技術を開発し、ノーベル生理学・医学賞を受賞した京都大学iPS細胞研究所所長・教授である山中伸弥教授は、ご自身で新型コロナウイルス関連のホームページを立ち上げ情報発信を続けています。その中でも常に「新型コロナウイルスとは『共存』してくしかない。」と語っています。

今すぐにこの世の中から新型コロナウイルスをなくすことはできません。緊急事態宣言が解除された今でも「青信号ではない。黄色信号が点滅している状態です。」「注意深く用心しながら進むことが大切です。」と最近のインタビューでも語っていました。

休業期間前の生活がすぐに戻ることはありません。新しい生活様式、新しい日常が必要であるということになります。

生徒の登校が3分の1ずつという3日に1回の登校は、保護者の皆様から見れば歯がゆいかもしれせん。学習に対しての不安もあることと思います。安全を考え、生徒一人一人が安心して登校できる状況を作っていくための大切な準備期間とご理解ください。

新型コロナウイルス感染防止のためには、新しい生活様式、新しい日常をご家庭とともに学校生活の中に取り入れ、子供たちが感染予防のための正しい行動が取れるよう、ご家庭でも指導していただくことも重要となります。

登校前の自宅での検温や体調管理とヘルスチェック表への記入、マスクを持参して正しく着用すること、清潔なハンカチやティッシュペーパーを持参すること、咳エチケットを守る、液体石鹸を使った丁寧な手洗い、ソーシャルディスタンスである人との距離を保ち、大声での会話を慎むことなど、新しい生活様式を日常化していくために、これらの活動を着実に子供たちに身に付けさせていきたいと思います。



山中伸弥教授は同じインタビューで「日本国民を誇りに思います。法律に強制されなくてもここまでコロナウイルスの影響を抑え込んでいる。素晴らしいことです。だからこそ今からが大切です。」とも応えていました。そして「私たちが一致団結して正しい行動を粘り強く続ければ、ウイルスとの共存が可能となります。自分を、周囲の大切な人を、そして社会を守りましょう。」と結んでいます。

ここまで努力したからこそ、これからが大切であり、その努力を無駄にしないための歩みを進めていくしかありません。

新型コロナウイルスが無くなったわけではありません。学校、家庭、地域社会が一致団結し新しい生活様式、新しい日常を通常の行動としていく努力を重ねましょう。

いよいよ6月に令和2年度の六月中がスタートします。ご理解とご協力をお願いします。



2年生は学校の心臓です

特別支援教室（CCルーム）授業開始に向けて

石川大輔

本年度の「特別支援教室（CCルーム）」では、以下の内容を中心に生徒を支援します。また苦手な部分も練習していきます。

1. 「聞く（相手の話を落ち着いて聞き、理解する）」
2. 「話す（自分の思いを正しく伝え、理解してもらう）」

この2つは、学校生活だけではなく、日常生活においても大切なコミュニケーションの基本的な要素です。そして、全校生徒が身に付けてもらいたいと思う「力」です。

「はい」という素直な言葉、「すみません」という反省の言葉、「ありがとう」という感謝の言葉が、日常生活の中で自然と多く発することを目標として、CCルーム教職員一同頑張って取り組んでいきたいと思っております。

ご協力をお願いします。

分散登校の様子



3年生

早く活躍を観たいです。

活発な1年生を期待します。

